

生活科学学習指導案

1年1組 28名 指導者 木場 幸乃

本授業は、以下の検証を行うものである。

- アサガオの気持ちを推し量って表現する活動を行うことは、進んで表現する力やアサガオの世話を続けようとする実践する力を育成するための手立てとして有効であったか。
- 体験活動と表現活動を繰り返し行うことは、進んで対象に関わり、学びに向かう力を育成するための手立てとして有効であったか。

1 単元 あさがおさんと ともだち

2 目 標

育てている植物に関心を持ち、育てたり親しく関わったりする活動を通して、植物の成長や変化の様子に気付き、植物への親しみをもって大切にすることができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
植物は生命をもっていることや成長していること、それに合った世話の仕方があること及び世話ができるようになった自分に気付いている。	アサガオの立場に立って世話を工夫したり、自分の関わりを振り返ったりして、それを自分なりの方法で表現している。	植物の観察や世話、花遊びを通して、植物が育つ場所、その変化や成長の様子に関心を持ち、自分のアサガオを大切に育てようとしている。

4 単元について

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(7)動植物の飼育・栽培を受けて構成されている。単元の構成に当たっては、植物を育てる活動を通して、その変化や成長の様子、生命をもっていることに気付き、植物への親しみを持ち、大切にすることができるようにすることを目指している。

この期の子供たちは、学校を探検する活動を通して、学校には様々な生き物がいることやいろいろな植物があることに気付いている。また、咲いている花や落ちている花びらに関心を持ち、花が咲いていることをとても喜んでいいる。

そこで、本単元では、種に名前を付けて大切にまいたアサガオの観察をしたり世話をしたりする。そうすることで、アサガオは日々変化し成長していることや、植物を世話する楽しさや喜びに気付くことができるようになる。

(2) 子供について

本学級の子供たちは、身近な自然を観察したり、学校で飼っている生き物を観察したりすることが好きである。また、学校探検や春探しでは、花の色や花びらの形に興味をもったり、生き物に声を掛けたりする様子も見られる。半数以上の子供がこれまでに植物の栽培をしたことがあり、アサガオやチューリップ、野菜などの栽培を経験している。しかし、種から育てたり、自分の鉢で育てたりした経験がある子供は少ない。

(3) 指導について

本単元では、アサガオの世話をしたり観察したりする活動を通して、植物は生命をもっていることや日々変化し成長していることに気付き、植物への親しみを持ち、大切に育てることができるようにする。

「であう・みつける」の過程では、アサガオの種を観察し、種に込めた思いや願いを話し合い、種に名前を付けて種まきをすることで、親しみをもって世話を続けることができるようにする。

「かかわる」過程では、変化や成長の様子を記録したり振り返ったりする学習の中で、アサガオの気持ちを推し量って考えたり表現したりする活動を行う。そうすることで、親しみを持ち続けながら、よりよい世話の仕方を考え、実践することができるようにする。

「つたえあう・つなげる」過程では、アサガオの成長や枯れる様子から植物に命があることに気付くことができるようにする。また、自分の世話の様子を振り返ることで、上手に世話をすることができた自分自身の成長に気付き、今後も植物を育ててみたいという思いや願いをもつことができるようにする。

5 指導計画（総時数 15 時間＋常時活動） ○重点化する「全ての学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力					
			言	情	問	実	協	振
であう みつける	1 種を観察し，種まきの仕方や育て方について話し合う。 【態：種に興味をもち，種まきの仕方や世話の仕方を考えようとしている。】	2	○					○
	2 名前を付けて，アサガオの種をまく。 【思：自分なりの思いや願いを込めて，種をまくことができる。】	2			○	○		
かかわる	3 アサガオを観察する。 【知：アサガオの変化や成長の様子に気付いている。】	4		○		○		
	4 支柱を立てたり追肥をしたりして世話をする。 【思：アサガオの変化や成長について考え，アサガオの立場に立って世話の仕方を工夫している。】	2 (本時)	○			○		
つたえあう つなげる	5 種をとり，種や枯れたつるの使い方を考える。 【知：アサガオの成長や枯れる様子から，植物にも命があることに気付いている。】	3			○		○	
	6 自分の世話やアサガオの成長を振り返り，お手紙を書く。 【知：上手に世話をすることができた自分自身の成長に気付いている。】 【思：アサガオの成長や自分の世話の様子を振り返り，自分のアサガオへの思いを自分なりに表現している。】	2		○				○

6 本時（9／15）

(1) 目標

アサガオを観察することを通して，アサガオの変化や成長について考え，アサガオの立場に立って世話の仕方を工夫することができる。

(2) 評価規準

アサガオの変化や成長について考え，アサガオの立場に立って世話の仕方を工夫している。

【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

ア 主体的な学びの視点

アサガオの観察や世話という体験活動と様子を記録したり発表したりするという表現活動を繰り返すことで，前回観察した時の様子と比較しながら，その成長や変化に気付くことができるようにする。また，表現活動を行い，これまでの学びを生かした話し合い活動を行うことで，これまでとは違った世話の仕方や関わり方が工夫できるようにする。

イ 対話的な学びの視点

アサガオの気持ちを推し量りながら伝え合い交流する活動を行うことで，アサガオの気持ちに寄り添い，世話の仕方を考えることができるようにする。

ウ 深い学びの視点

アサガオの世話の仕方を工夫する場面において，教師の発問を工夫し，「どうしてそう思うの。」と根拠を尋ねたり，「これからどうしたいの。」と子供の思いや願いを尋ねたりすることで，一人一人が自分との関わりで対象を捉えることができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
であう・みつける	5	1 これまでの世話の様子や前回観察した時のことを振り返る。 ・ 昨日も今日もアサガオさんにお水をあげているよ。 ・ 葉っぱが6枚だったけれど、9枚に増えたね。 ・ つるが伸びて、絡まったよ。困ったな。 2 学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> あさがおさんを たすける ほう ほうを かんがえよう。 </div>	○ 子供が世話を頑張っている様子を紹介することで、自分自身の頑張りや成長を感じることができるようにする。 ○ つるが伸びて、友達のアサガオと絡まったアサガオを提示することで、絡まったアサガオを助けてあげたいという思いや願いをもって本時の学習に取り組むことができるようにする。
かかわる	30	3 つるが絡まっている様子から、アサガオを助ける方法を話し合う。 ・ 絡まったつるをほどいて、鉢を離して置いてみたらどうかな。 ・ お兄ちゃんが、アサガオの鉢に棒を立てていたから、ぼくもやってみよう。 ・ おばあちゃんは、つるを網に巻き付けていたよ。だから、網をつけたらいいかもしれないな。 4 役割演技を通して、アサガオの気持ちを考える。 ・ 離してくれたから、もう絡まなくなったよ。 ・ 棒にくるくる巻き付いて、どんどん伸びることができそうだよ。 ・ 網に巻き付いて、もっと大きくなるからね。	○ 「どうしてそう思うの。」という発問をすることで、発表したことの根拠を考えさせたり、「これからどうしたいの。」という発問をすることで、アサガオの願いを考え、今後の世話の仕方を考えさせたりすることができるようにする。 ◎ アサガオの気持ちを押し量り、役割演技をすることで、進んで話したり聞いたりすることができるようにする。 ○ アサガオのお面を用いて役割演技をすることで、アサガオの気持ちを押し量って考えることができるようにする。 ※ アサガオの変化や成長について考え、アサガオの立場に立って世話の仕方を工夫している。【思考・判断・表現】
つたえあう・つなげる	10	5 本時の学習を振り返り、新たな思いや願いをもつ。 ・ あさがおさんが喜んでくれるから、これからも毎日お世話を頑張るぞ。 ・ つるがどんどん伸びていけるように、棒を立ててあげよう。 ・ 来週もあさがおさんに会うのが楽しみだな。 6 自分のアサガオに声掛けをする。 ・ わたしのあさがおさんも、つるがのびてきているね。棒を立ててあげたいな。 ・ あさがおさん、もっとお世話を頑張るからね。どんどん大きくなってね。	○ 本時の学習を振り返ることで、アサガオを助けてあげられるという実感や、世話を続けていこうとする意欲をもつことができるようにする。 ○ 全体での発表や話し合いをした後に、自分自身のアサガオに声掛けをすることで、アサガオのためにできること伝えたり、次への思いや願いをもったりすることができるようにする。